令和３年度　第２回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会会議録

会議名称：令和３年度第２回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会
日　　時：令和３年９月 28 日(火)14 時～15 時 30 分
場　　所：古賀市役所第一庁舎４階第２委員会室
主な議題：主な議題：①子どもの読書活動について
②「第３次計画」の進捗状況（取組の成果と課題等・まとめ）について
～「子ども読書活動調査結果（進捗状況一覧表)」から～
③「第４次計画」の事業体系(考え方)、及び章立て(案)について
④読書活動アンケート調査について
⑤その他
傍聴者　：０名
出席者　：鈴木 章会長　村山 美和子副会長　井手 由紀子委員　亀川 代志子委員
草野 三保子委員　森中 祐美子委員
以上６名
欠席者　：園 久惠委員 山森 直哉委員
以上２名
事務局　：６名
配布資料：レジュメ
別紙資料①子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究の記事
別紙資料②第３次古賀市子ども読書活動推進計画の進捗状況
（取組の成果と課題等・まとめ）
別紙資料③第４次古賀市子ども読書活動推進計画における事業体系(考え方)
別紙資料④古賀市子ども読書活動推進計画　構成比較　～第 4 次計画の章立て(案)～
別紙資料⑤第４次古賀市子ども読書活動推進計画にかかる読書活動アンケート調査について(概要)

１　開会のことば

（事務局）　皆様、本日はご多用の中お集まりいただきありがとうございます。本日、司会進行をいたします文化課参事補佐兼図書館係長の吉田です。よろしくお願いいたします。

まず、資料の確認をいたします。レジュメ、別紙資料①子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究の記事、別紙資料②第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画の進捗状況（取組の成果と課題等・まとめ)、別紙資料③第４次古賀市子ども読書活動推進計画における事業体系(考え方)、別紙資料④古賀市子ども読書活動推進計画構成比較～第 4 次計画の章立て(案)～、別紙資料⑤第 4 次古賀市子ども読書活動推進計画にかかる読書活動アンケート調査について(概要)、以上、6 点です。これらに加え、先に郵送いたしました古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況一覧、更には鈴木会長自ら作成いただき、本日お配りした「この進捗状況一覧における 5 年間の評価内容をグラフ化した資料」を用いて進めさせていただきます。

本会議につきましては、会議の公開制度に基づき傍聴席を設けております。また、会議の内容につきましては、会議録を作成し、古賀市のホームページに公開させていた

だきますのであらかじめご了承ください。
　次に、ご発言される際のマイクの使用についてです。お話いただく前に、マイク本体のスイッチを ON にすると緑ランプが付き録音が始まりますので、点灯したら話し始めてください。話し終えられたら、スイッチを OFF にしてください。
お話しされる際、複数の方が一緒にお話しされたり、マイクから離れてお話しされたりすると声が拾えない場合がございます。少々緊張されるかもしれませんが、スムーズな会議録作成のためご協力をお願いします。
　それでは、レジュメに沿って、古賀市子ども読書活動推進計画 策定協議会第 2 回を開催いたします。教育部長よりごあいさついたします。

（部　長）　皆様こんにちは。本日は皆様ご多用の中ご出席くださり、ありがとうございます。
　新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言も、10 月 1 日から解除となると報道されております。今後、私達の生活も油断は出来ませんけれども、少しずつ日常が戻るのではないかと思っております。感染予防を行いながら、許される範囲で、どうか楽しく生活できることを祈っております。
　さて、前回第 1 回目では触れませんでしたけれども、古賀市では今、2022 年から 2031 年までの 10 年間にわたる第 5 次古賀市総合計画を策定しております。今の計画が第 4 次として動いているのですが、イメージとして古賀市子ども読書活動推進計画はその下にあるというような形で、これも法律に基づいてつくっていただいているところです。
　そういった中で、総合計画の中で教育に関するところの書きぶりについてです。第 4 次計画では、「子ども達の生きる力の育成が必要である」としておりましたが、第 5 次計画では、「予測困難な時代を生きる子ども達には、自らの可能性を最大限に発揮し、自ら切り拓いていく、生き抜くための資質・能力が必要になる」として、「生き抜く力」と表現を変えてきております。読書に関するところでは、「子どもは、読書によって言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにすることから、市内の小中学校では、朝に読書の時間を設けるなど、子どもの読書活動が盛んに行われており、子どもたちが読む本の冊数は全国平均より多くなっています。インターネットの普及などにより、全国的には高校生頃から読書離れが進み、情報収集源としての本への依存度は減少傾向にありますが、子どもの頃から読書活動を継続することにより、これからの生涯学習社会を生き抜くための学びの技術を身につけることが重要となってきています」と、現状と課題としてこのような記載内容にさせていただいているところです。
令和 4 年度に総合計画と同時期に策定ということになりますことから、今述べた子ども達の生き抜く力を育むようなことも意識して、考えていただければと思っております。
　本日、第 2 回の古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会、どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）　それでは、鈴木会長よりごあいさつをお願いいたします。

2　会長あいさつ

（会　長）　皆さん、こんにちは。
　私は、この夏研修会で、絵本のよさ、あるいは絵本の力についてお話をしました。これに、北九州市の中学校の校長先生が参加され、2 学期になって、早速、特別支援学級

の生徒さんに直接読み聞かせをされたということを言われました。その生徒は、「本当に充実した時間を過ごせた」と目を輝かせ、担任の先生に「これから絵本の読み聞かせの時間をとってください」と言ったそうです。このことを受けて校長先生は職員会議の中で子どもに言われたことを伝え、さらには図書館活用教育、読書活動をもう一度見直してやっていこうと職員に働きかけられ、何人かの方が中心になって今検討中ということです。私もお話ししてよかったなと思っているところです。

今日は第3次計画におけるこれまでの5年間の取組のまとめと、今後の第4次に向けてということが中心になります。取組のまとめ全386項目をざっと私も見まして、チェックをしました。

そして、お手元のグラフのようにデータ化してみました。386項目のうち、記入された1段階から4段階の評価をパーセンテージで表してみると、4と3が「概ね」以上ということで、達成度を一目で見ることができます。努力による成果が表れたけれども、まだやや課題もあるなということが見えてくるわけです。本日はこれらの資料を使って検討していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）　ありがとうございました。それでは、レジュメの3の協議等に移ります。内容としましては、この会議に先立って開催いたしました、9月16日の第2回のワーキンググループ会議での協議内容を踏まえまして今回4点挙げさせていただきます。

この先の進行は鈴木会長にお願いします。

3　協議等（1）子ども読書活動について

（会　長）　それでは、このレジュメに沿って進めていきます。

まず初めに、子どもの読書活動そのものについて基本的な事項になると思いますが、中野館長からお話をいただきます。別紙資料①をご覧ください。

（館　長）　それでは、私のほうからご説明をさせていただきます。この内容は今年の8月11日に発表されたもので、国の組織である独立行政法人国立青少年教育振興機構が発表した内容です。内容は、我々がこれから推進計画をつくることに対しての追い風となるような内容ではないかということで、皆さんにもぜひお知らせしたいと思い、ご紹介いたします。

20代から60代の男女5000名に聞いた内容がまとまったもので、非認知能力の説明については下部の絵をご覧ください。非認知能力が土台の部分、認知能力がIQとあり、ここは学力とかそういうことだと思いますが、その下の非認知能力が二つございまして、一つは、自分に関する力、いわゆる自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信などということです。もう一つの非認知能力が人と関わる力、協調性、共感する力、思いやり、社交性、道徳性などであり、子どもの頃の読書量が多い人ほど、この非認知能力が高い傾向にあるということが明らかになってきております。この内容を見る限り、やはり子どもの頃からの読書習慣、そういったことが非常に大切であるということが明らかになっています。なお、この内容は今年8月12日の読売新聞の1面に掲載されておりまして、この中では、紙の本で読書する人は、パソコンやスマートフォンなどで読む人より、主体的行動力や批判的思考力、自己理解力が高い傾向にあるということが明らかになってきております。今回のこの調査で、いかに子どもの頃からの読書習慣、読書活動が大切であるかということが明らかになってきており、これまで古賀市においても、地域文庫の方々、あるいは様々な読書ボランティアの方々、あるいは小・

中学校、高校、そういった中での取組が、非常に大切であるということが明らかです。こういったことを踏まえまして、我々図書館職員も、これからもさらに子どもの頃からの読書活動を推進していきたいと考えています。

しかし、一方ではご存知のとおり、特に高校生からの読書離れが顕著になっており、今回つくる第 4 次計画においては、こういった子ども達の読書離れにどう対応していくかということが 1 点。それからもう 1 点は、こういったウィズコロナの状況、恐らくコロナ対策が長期化すると思いますが、図書館も閉館せざるを得ない状況が続きましたけれども、そういったコロナ禍の状況の中で、読書活動をどう進めていくかということも、この第 4 次計画においては考えなければならない課題ではないかと思っております。繰り返しになりますが、読書活動が重要である一方、現状として子どもの読書離れが進んでおり、あるいは、このコロナの時代の中でどのように対応していくかということが課題ではないかと思っておりますので、ぜひ、委員の皆さんからも、そういったことも念頭に置いたご意見をいただければ非常にありがたいと思っております。私のほうからは以上でございます。

（会　長）　はい、ありがとうございました。

今、課題として 2 点挙げられました。読書離れにどう対応していくのか、今後も続くことが考えられるコロナ禍。そういった状況の中での読書活動の進め方ということだと思います。そして、基本的なこととして、資料に示された内容のとおり大変大事なことを言っていただきました。

ここまで何かご質問、ご意見等ございましたら。よろしいですかね。

それでは次に参ります。

（２）「第 3 次計画」の進捗状況（取組の成果と課題等・まとめ）について
～「子ども読書活動調査結果（進捗状況一覧表）」から～

（会　長）　まず、第 4 次計画の審議に入る前に、これまでの第 3 次の 5 年間の状況、取組の成果と課題等についてのまとめについて、意見交換しながら考えてみたいと思います。それでは事務局、お願いいたします。

（事務局）　事前に郵送させていただきました「古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況一覧表」の冊子と、本日お配りした別紙資料②の「取組の成果と課題等・まとめ」という 2 枚つづりのプリントをご覧ください。

古賀市では、平成 29 年 10 月に前回の計画「第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画」をおおむね 5 年間の計画として策定し、計画期間中における子ども読書活動につきましては、毎年度、古賀市図書館協議会にて進捗管理を行っています。

第 3 次計画の最終年度となる令和 3 年度は、これらを総括する意味も含めて、計画第 5 章の「古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系」に基づき、市役所の関係各課と、学校、学童保育所、保育所、幼稚園、読書ボランティア団体など市内 70 以上の団体に対し調査を依頼し、5 年間の現状・成果、課題、今後の取組、そして新たに「5 年間の活動についての自己評価(4 段階評価)」も追加する形で、調査を依頼しました。お手元の「進捗状況一覧表」は、各実施機関が記載した内容をとりまとめたもので、また「取組の成果と課題等・まとめ」は、事務局が主な内容をピックアップしたものとなります。策定協議会の委員さんには、御多忙中にもかかわらず、読書ボランティア団体、学校、保育所等の立場から子どもの読書活動調査にご協力いただき、まことにありが

とうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

ここからは、「取組の成果と課題等・まとめ」の資料に基づき、古賀市子ども読書活動推進計画の 3 つの柱に沿って、5 年間の取組の成果について述べたいと思います。

古賀市では、子どもがそれぞれの発達段階や個性及び興味・関心に応じ、日常的な読書活動ができるよう、市役所内の関係各課、家庭・地域、保育所等施設、学校、図書館等において環境の整備や活動支援を通して、子どもの読書活動を推進しています。

計画の柱 1「家庭・地域、保育所（園）、学校、図書館における子どもの読書活動の推進と環境づくり」について。柱 1 では、一つ一つの機関ごとに行っている子どもの読書活動について、成果をまとめています。

古賀市では、子どもの対象年齢に応じ、4 か月児とその保護者に絵本を手渡すブックスタート事業、3 歳児に 1 冊絵本を手渡すセカンドブック事業等の子育て支援事業に取り組んでおります。コロナ禍で会場に集まることが難しい間はブックスタートの絵本を郵送するなどして対応しています。

市内の地域文庫は、公民館活動に参加し、地域に溶け込みながら子ども達が本と出会い、区の人たちと交流できるふれあいの場をめざして活動を続けていらっしゃいます。中には、地域文庫を卒業した中学生・高校生が活動をサポートする姿も見られたそうです。また、地域文庫には子どもだけでなく最近は大人の参加も増えてきているそうです。

学童保育所では、宿題後や食後の待ち時間に本を読む、毎日の帰りの会の紙芝居、朝の会の本読みなどが継続して行われています。

地域コミュニティでは、公民館において、世代間交流の一環として読み聞かせを実施する継続的な取り組みも行われています。

児童館・児童センターでは、図書コーナーの充実、利用する子どもへの本の貸出しが行われています。

保育所等施設では、職員間で絵本の読み聞かせの研修を実施し、園内に絵本コーナーを設け、子どもが自分で絵本を手に取ることが出来るよう工夫しているそうです。中には、異年齢児クラスで年長児が年下の子どもに読み聞かせを行う姿も見られたそうです。

適応指導教室では、子どもが学習にかかわる資料や、体験活動の参考資料等、興味関心を持つ資料を選ぶ場として図書館を活用しています。

高等学校では、学校独自の朝の読書活動の継続や、図書委員会生徒による朗読会を数年にわたり続けている学校もあります。

特別支援学校では、市立図書館の団体貸出を活用し、図書室を設け、利用方法を学びながら本に親しんでいます。

市立図書館では、子どもの対象年齢に応じ、赤ちゃんおはなし会、小さい子のおはなし会などの子ども向け事業を継続しています。また、館内児童書コーナーにおきまして、対象年齢に応じたおすすめ本コーナーを充実し、子どもに対するレファレンスサービスを継続して行っています。また、読書ノートの配布に替えて、市立図書館の利用を促すことを目的とした「利用案内やおすすめ本を紹介した冊子」を小学 1 年生に配布するなどの取組みも行っています。

計画の柱 1 の中で、「特徴」として挙げられるのは、学校での読書活動がさかんだということです。学校では、学校図書館における学習・情報センターおよび読書センターとしての機能を高めるとともに、司書教諭及び学校司書を中心に全職員が図書館運営について共通理解を深めながら、子どもが自主的な読書活動をできるよう運営体制

の向上に努めてきました。古賀市の特色としまして、小学校 8 校、中学校 3 校に一名ずつ図書司書が配置されており、円滑な学校図書館の運営を図っています。学校が開校している日にはいつも学校図書館に司書がいて、子どもの読書活動や調べ学習の支援、図書委員会活動などを支援しているということはとても大切なことだと思います。小・中学校では、図書委員会による自主的な POP や本の帯の作成、読書郵便、ビブリオバトルなど児童同士で本をすすめあう行事の取組が行われているそうです。

計画の柱 2「図書館間及び子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携、協力に向けたネットワーク化」についてです。計画の柱 2 の中で「特徴」として挙げられるひとつ目は、古賀市には長年活動を続けている読書ボランティア団体が多く、活動がさかんに行われていることです。古賀市内の公民館や集会所を活動場所として長年活動されている市内 6 つの地域文庫の皆さんをはじめとして、市立図書館を活動場所としておはなし会や布絵本の製作などを行うボランティア団体 5 団体、各小学校の朝の読み聞かせやおはなし会を行う読書ボランティア団体や、音読、紙芝居の実演等の活動をしていらっしゃるボランティア団体、合わせて 20 以上の団体があり、それぞれ長年にわたり地道な活動を続けていらっしゃいます。

今回、「5 年間の活動についての自己評価」をお願いしたところですが、読書ボランティア団体の方々にとって、地道な子どもの読書活動を、5 年間だけ区切って自己評価するということ。また、令和 2 年度からのコロナ禍において、思うような活動が展開できずに苦慮されている様子が窺える中で評価することは、大変難しい判断であったと思います。結果として、地域文庫、学校、読書ボランティアの活動などは、全体的に見て「おおむね達成している」という評価が多い一方で、コロナ禍で思うように活動できない状態を重く見て「低く評価された」と思われる団体さんもいらっしゃいました。

また、計画の柱 2 の中で「特徴」としてふたつ目にあげられるのは、子どもの読書活動推進の連携と協力のネットワークです。家庭で本を読む、図書館で本を借りる、保育所等施設で読み聞かせを行う、小学校、中学校や高等学校で朝の読書などの活動を行うというような、単独の機関はもとより、それぞれが互いに連携し、協力しあって読書活動が推進されているところが古賀市独自の特徴といえるのではと思います。具体的には、市立図書館と学校、市立図書館と保育所等施設、市立図書館と読書ボランティア団体、学校と読書ボランティア団体、保育所等施設と読書ボランティア団体、学童保育所と高等学校などでさかんな活動が行われています。図書館を介さずとも、保育所や幼稚園で読書ボランティア団体が活躍されたり、学童保育所で高等学校の図書委員会や読書ボランティア団体が読み聞かせや朗読会を行うなど、様々なネットワークの中で、それぞれ連携・協力した取組が続けられている様子が窺え、とても心強く感じました。

計画の柱 3「子どもの読書活動に関する理解と関心の普及」について。広報活動としては、古賀市ホームページ、古賀市立図書館ホームページ、教育委員会フェイスブック、広報こが、行事予定表をはじめとして、情報誌「こがっち」や子育て情報誌「こもこも」に子どもの読書に関する様々な催しを継続して掲載し広報に努めています。

学校における子ども読書の日の啓発や広報活動として、「おうちで読書のプリント」の提出を行ったり、4 月の子ども読書の日、夏休み、冬休みに「うちどく」を通じて家庭読書を行っている学校がある他、全児童が読書手帳で読書のめあて、読書目標冊数到達を自主管理しているところや、令和元年度にビブリオバトルを行った経験を基に、次年度には図書委員会の児童が友人と自主的にビブリオバトルを行っていたそうです。児童センターでは、子どもによる自主的な読書活動の取組としては、ここに来館す

る子どもが「おすすめの図書」を紹介するプレートを作成し本の紹介を行っています。

また、読書活動の奨励としては、図書館として、長年読書活動を行ってきた読書ボランティアに対して古賀市文化の日記念式典での社会貢献者表彰の推薦を行っています。古賀市では毎年のようにどこかの学校が子どもの読書活動優秀実践学校の部の表彰を受けています。また、ある学校では、100 冊本を借りてブックマスターになった児童を図書館前の廊下に掲示しており、全校児童 490 人中 300 人が達成しているそうです。

次に課題について述べたいと思います。課題としてまとめのプリントに挙げていますのは、複数の団体・機関から「1 達成できていない」または「2 あまり達成していない」という評価があった項目のなかからピックアップしたものです。保育所等施設での家庭での読書に関する保護者へのはたらきかけでは、コロナ禍のため絵本の貸出しや保護者の園への立ち入りを禁止しているところが多く、苦慮している様子が窺えました。学校間ネットワークの活用では、市立図書館から借りる本を地域開放用一般図書のように使送便などで対応してほしい希望があるができていないという点があげられました。また、学校図書館の地域開放では、市民の利用を想定しているものの、読書ボランティアや保護者以外の利用があまりない点などがあげられています。読書感想文・感想画の取組については、西日本読書感想画コンクールで学校賞を受賞するなど学校ぐるみで取り組んでおり、目的を達成していると回答した学校も多い中、読書感想文の取組が不十分な学校が多く、達成していないと回答している学校もあり、様々に評価がわかれている状況です。

ここまで、事務局として取りまとめた内容のご報告、また考えを述べさせていただきましたが、現場で活動されている策定協議会の委員さん方からも、恐縮ですが、成果や課題に対する補足説明や、今後、取組を予定している内容の他、全体を通しての質疑や感想ご意見などを頂戴できればと考えております。

今後、事務局としては、先に郵送した一覧表、先日のワーキンググループ会議にて出された意見、更には本日の策定協議会で委員さん方から頂戴した内容を基に、第 4 次計画の構成や本文を検討する作業に入っていきたいと考えています。

（会　長）　ありがとうございました。

それでは、お集まりの皆様方それぞれの団体等から補足説明をいただきたいと思いますが、その前に参考までに、私がまとめたグラフについてお話します。

まず 3 つのグラフは柱の 1 から 3、それぞれのグラフで、評価については表の右側の数字になります。4 から 1 の 4 段階評価です。で、別に未記入もあるわけです。網掛けの部分もあって、これは多分評価そのものが出来ないよという意味なのかわかりませんけれども、網かけも含めて未記入があるわけです。これも含めて考えるとこのグラフになる。例えば柱 1 だと、「4 達成」と「3 概ね」、13%と 60%併せて 7 割少し、というふうに見ていきます。柱 2 も同じように大体 7 割少しはできたという評価です。柱 3 については、9 割方概ね以上できているというのが見えてくる。こういう数字はなかなか出てこない。すごい数値なんです。この柱 1、2 もすごい数字なんですけれども、柱 3 は概ね出来ましたよというのがほとんどと考えていいと思います。裏側は総合的に全体として見ると、やはり評価 4 と 3。つまり、「概ね」以上が 8 割弱になり、すごい成果じゃないかなと思います。

とはいえ、やはり「あまりできていない」「できていない」という評価をされたものもあります。このあたりの評価が個人でされたのか、団体でしっかりと話し合って出

されたのか。時間がないので出せなかったのか、評価が出来ないという意味で未記入・未提出なのか、このあたりも考える必要があります。ただ、未記入・未提出が意外と課題が多いと見るのか、出来たんだけどなかなかね、なのか。ここがどう評価していいのかわかりません。未記入という空欄の意味が問題となります。

それから、担当者はしっかりと考えたのか、1 人に任せてすぐ出させたのか。つまり、根拠は何なのか、こういう問題も出てきますが、そういうことを差し引いても、評価が高いことにいろんな形で感心しました。

とはいえ、色々課題があるようですので、関わっていらっしゃる地域文庫さんとか学校等、保育園に所属の方がおられますので、コメントいただきたいと思います。
こういう成果・課題がということがあれば、まとめて出していただければと思います。

では、五十音順で、井手園長先生からお願いします。

（井手委員）　後ほどお願いします。

（会　長）　では、次に亀川委員お願いします。

（亀川委員）　私は地域文庫の活動をしています。鹿部区にある公民館で活動してまして、もう 25 年以上活動しています。私が変わらず代表をしているので、5 年間の年度ごとの話合いをまとめて回答を提出しました。達成しているかどうかという評価をすることは、私自身とても難しかったです。

まず 5 年間を遡ってみました。その 5 年間の中では、大きな企画としては 25 周年企画として記念行事を行いました。星の子文庫さんに来ていただいて、地域の方全部に声をかけて人形劇を見ていただきました。25 年前に文庫を始めた時、地域の中で「文庫」という存在を認識してもらうのは難しく、認識していただくのに時間がかかりました。今では皆さんに「こじか文庫」として認識していただいています。25 周年企画の時は、役員さんの方々、区長さんを含めて色々お手伝いもしていただいて、本の読み聞かせを通して、居場所づくりができたかなということで、概ねできたと評価しました。

（会　長）　ありがとうございました。つけ加え等がありましたら、また。

次は、草野委員お願いします。

（草野委員）　私のところは未記入が 2 つあります。たけのこ文庫で、1 年 1 年の子ども達との触れ合いの中で読書していくというのがあったので、到達ができるとかできないというのは考えていません。たけのこ文庫は転勤の家族が多いので、会員が入れ替わっていきます。

古賀子どもの本の交流会は、大人の団体で、古賀市内のいろんなボランティアさんがグループで研修し、その結果を普及させていくというのが主な目的で、自らがどう設定し、学習していき、子どものことをどう見るかっていうのが私たちの願いであるし、目的です。子ども達に今この本がいいんじゃないとか、読み聞かせしようとか、お話しようとかいう本の選び方に関わってくるので、自己研修がかなり必要かなと思っております。まずそこを目的にしながら、古賀子どもの本の交流会もたけのこ文庫も日々精進しなければいけないというのが現実です。いろんな子どもがアクシデントとか心がどうしたのかなと思うときがあり、一方的に自分の感覚だけで物を言っちゃい

けないと思っているので、そのためにはやはり研修しておかないといけないという思いがあります。読書はそれにつながるものだと思っています。そういう目的があるので、未記入のところはどうしても書けないかなって思っております。第 1 に私達自身が、本においても、子ども達においても、地域においても社会においても好奇心を持ちながら、どう力を出していけるかというのが一番の目的、永遠のテーマかなと思っています。子どもが喜んでいた、笑っていたというだけで済まさないようにやっています。成果というのが私の中に見えないものですから、そういう評価にさせてもらっております。

（会　長）　ありがとうございます。

評価そのものが難しい、あるいはしにくい、判断し難いんですよと。したくないということじゃなくてしにくいし、出来ないんですよという難しさもある。デリケートなことも含めて。そういうことを言われました。

本当にそうで、評価という言葉は簡単ですが、そう簡単には出来ないのがまさに評価だと思います。

次に村山委員さん、お願いします。

（村山委員）　はい、コスモス文庫です。評価は余り達成していないと書きました。

第 3 次の古賀市子ども読書活動推進計画の会議に参加させていただきまして、課題意識を持ちまして、頑張ろうと思い、ブッククラブとかを立ち上げて、米多比の行政区の話合いでお願いしてみたり、回覧をしてみたり、無線放送で放送したりとかいう努力をしていました。しかしながら、なかなか集まらなくて、児童館のほうにも協力していただいて、そのときに来ている子どもたちと一緒に行事を行うというようなことをずっと続けておりましたけれども、コロナのちょっと前から、小学生が児童館にあまり来なくなり、今までは、そのときに遊びに来た子に声をかけて色々活動していましたが、それもなかなか難しくなりました。

しかし、私は関わっていないのですが、児童館としては、乳幼児の幼児学級のときには、事業参加後に本を借りて行ったりとかいうのはしていらっしゃるようです。

この 5 年間、頑張ったけれどもなかなか成果を上げられなかったというような苦悩がありまして、あんまり達成していないという結果になりました。

しかし、大人の方で本好きな方がいらして、毎週のように来たりされるんですよ。年間に借りられる冊数はものすごい数です。その方のお世話をやっているんですけれども、今、緊急事態宣言で文庫は閉めているわけですが、もうその方が待ち構えておられますので、早速お電話して、本を借りに来ていただこうかなと思っています。コロナであっても、それを吹き飛ばすぐらいの読書意欲があるんですよね。すごく感心してびっくりしています。

そういう一面も、文庫をやりながら知ることができました。コロナが落ちつきましたら、また 1 からやってみるかというようなことで、例えば行政区の話合いに参加させてもらって話してみるとか、そういうこともやってみたいなと思っています。他の文庫さんは、多分、公民館とタイアップしてありますよね。うちは児童館だから行政区とは積極的にお話合いに行かせてもらわないと出来ないところもあって、すごく勇気がいるんですけれども、頑張ってみようという気持ちです。

まとめを見て思うのですが「概ね達成している」がすごく多いんですよね。みんな頑張っておられるんでしょうが、この間の指導主事の山森先生のお話では、不読率がす

ごく増えていると言っていらっしゃいました。地域文庫とかにも来ない、学校でも先生がすごく努力していらっしゃると思うけれども、そこにもなかなか入ってこない子ども達が、なぜ本から離れてしまったのかということは考えていかないといけないのではと思います。私の経験からお話させていただきますと、子どもには個性が色々あり、読みの速さとかも全然違います。ビジョントレーニングをやったことがありますが、本の文字をきれいになぞって読むことができない子どもも多いんですよ。ぱっと写真で見たように見て、大体で次のページにいく、そういうお子さんは絵本から先に進み切れないところがあります。そういうところも考えていかないと、根本的な解決は出来ないかなと思います。希望される方があったら、文庫で一緒に音読とか本選びなどができればと思っています。その辺理解してくださる方があったら、一緒にやっていきたいと思っています。

（会　長）　ありがとうございました。本離れの対応という課題も、今言われたところです。
では次、森中委員お願いします。

（森中委員）　私もおおむね達成しているとしています。
高校では朝読書をしていまして、続編をよく借りに来たりします。図書館を利用してくれる子が増えたかなと思っています。
でも、小さい時に本にふれていない生徒は自分で選べなくて、「おすすめの本はありますか」と言って来るんです。本が好きな子はもう自分でどんどん借りていきます。難しい本も入れないといけないと思うんですが、生徒目線で映画の原作本とか、高校生に親しみがあるような本をまず増やしていこうかなと思っています。

（会　長）　ありがとうございました。
井手委員、何かありましたらお願いします。

（井手委員）　保育園の私のところにも未記入があります。これは、やはりコロナの影響があります。
園内では、コロナ禍でも毎日の読み聞かせや文庫さんに来ていただいたりとか、充実してきているんですね。ただ、地域の方との交流や、保護者との交流が、コロナ禍で閉ざしてしまったところがあります。最初はできていましたが、そこの部分でどうしようかとなり評価は未記入になりました。これまでできていたこともコロナでできなくなり、あまり達成できなかったという評価になったりしました。
ただ、園としては、園児と職員間では、あまり変わりはありません。また、保護者にはお便りや掲示板で発信やアピールをしていますが、これまで実施できていた保護者への絵本の貸出しが全然できなくなりました。地域の方との交流も出来なくなってしまいました。そういう点で1番響いたのが、やはりコロナだと思います。

（会　長）　ありがとうございました。
この5年間の中では、コロナ禍というのは後半なんですよね。評価する時、5年間の中のこの 2 年間の影響は大きく、評価しにくい、そこをおっしゃったと思います。その指摘は本当にその通りだと思います。
皆さんから具体的なことを言っていただきました。特に最後のほうでは課題等もまとめていただきましたけれども、全体を通して第 3 次のまとめについて、何かありま

せんか。よろしいですかね。

色々な課題、評価のしにくさなどあるわけですが、結果として今後どうしていくのかということを含め、次に、第4次計画に話を進めていきたいと思います。

第4次計画の章立ての案について、事務局お願いします。

（3）「第4次計画」の事業体系(考え方)、及び章立て(案)について

(事務局)　それでは、先ほどの第3次計画の進捗状況、取組の成果と課題等のまとめにおいてご協議いただいた内容を踏まえた上で、まずは第4次計画の事業体系について、別紙資料③を用いて説明させていただきます。

計画の策定にあたりまして、この事業体系のとおり、基本方針となる計画の柱、実施主体となる対象、そして具体的な事業を定める必要があります。この計画の柱につきましては、古賀市子ども読書活動推進計画の第1次から第3次計画まで、ずっと3つの柱を替えることなく、中心に据えて計画を推進してきました。3つの柱とは、1つ目が家庭や地域、保育所等の施設がそれぞれのところで読書活動の推進と環境づくりを行うこと、2つ目は関係機関が連携と協力のネットワーク化を図りながら進めること、3つ目が理解と関心の普及のため、啓発に努めることを指すものであり、事務局としましては、第4次計画においても、これら3つの柱を継承していきたいと考えています。理由としましては、3つの柱は、第1次計画から継承してきた基本方針であり、今般の社会情勢の変化などによって、枝葉となる事業が入れ替わることはあっても、「子ども達が本と出会い、あらゆる機会と場所において自主的な読書活動ができるよう、家庭や地域、保育所等施設、学校、行政が一体となって子どもの読書環境を整備していく」という目標は今も変わらないことから、第4次計画においても、これらの柱はゆるがないものという考えからです。また、この内容は、現行の「福岡県子ども読書推進計画」における基本方針に沿ったものでもあることから、事務局としましては、今回の第4次計画において、網掛けしている3つの柱とそれぞれの対象は、内容を替えずに計画づくりを進めて行きたいと考えておりますがいかがでしょうか。なお、網掛けしていない右側の事業欄については、今後計画づくりを進めて行く中で、中身を精査し、具体的な内容を定めていきたいと考えております。

続けて、第4次計画の章立てについてです。別紙資料④をご覧ください。表の中央部の第3次計画では、第1章で計画策定の背景を、そして第2章で基本方針を掲げ、第3章で成果と課題を整理し、第4章の具体的な取組の中で、先ほどの3つの柱を基にそれぞれの事業を位置づけ、第5章でこの実施体系を記しました。今回の第4次計画の章立てにつきましては、事務局としましては、基本的には第3次計画の構成を継承するものの、計画の道筋を明確にするため、はじめに「1 計画の背景と現状」、次に「2 これまでの取組の成果と課題」を整理し、そして「3(目標や基本方針を含む)基本的な考え方」を掲げ、「4 計画推進のための方策として、3つの柱の基にそれぞれの事業を位置付け」、最後に「5 推進体系」や「6 進捗管理等」を記すといったように、わかりやすくまとめ上げたいと考えておりますがいかがでしょうか。なお、こちらについても、現時点では、枠組みのみの記載であり、事業欄は空白になっています。

今回ご報告した第3次計画の進捗状況や本日ご協議いただいた内容、そしてこれからご説明させていただく読書活動アンケート調査結果、更に今後皆様方から頂戴するご意見やお考えなどに基づきまして、この事業欄や計画書本文の内容を詰めていきたいと考えています。

以上、第4次計画における計画の柱を含む事業体系及び章立てにつきまして、事務

局案をお示しさせていただきました。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

（会　長）　ありがとうございました。

まず計画の柱はこれまでの第 3 次の形を継承していくと言われました。とはいえ、デジタル化に伴い図書館の環境も変わってくると思います。そういう意味で、幾つか枝葉の点で修正補足が多分入ってくると思うんです。ただ基本的なところはこれでいくということで、私もこの方向が良いという考え方です。そして章立てについても、やはりこういう形になると思います。私もこの方向でいいと思います。あとは内容を精査して、検討することになると思います。

今後の計画の柱と章立てについて、ご意見等ありませんか。

よろしいでしょうか。

では、この事務局案の方向で進めさせていただきます。よろしくお願いします。

（４）読書活動アンケート調査について

（会　長）　それではアンケート調査について、事務局お願いします。

（事務局）　別紙資料⑤をご覧ください。はじめ 2 ページに概要を、その下には各調査表案を添付しています。

このアンケート調査は、子どもたちの読書状況や意識の変化を調査し、第 4 次計画を策定するための基礎資料とするため実施するもので、対象は、第 1 回策定協議会において、委員から幼児期の読み聞かせ活動の現状も把握してほしい旨のご意見をいただいたことから、乳幼児とその保護者を新たに加え、小・中学生、高校生と 3 つのグループ分けで進めて行きたいと考えています。

具体的な調査内容についてご説明します。まず、乳幼児とその保護者に対しましては、新たに独自調査を実施し、全部で 12 問、項目としては、読み聞かせの状況、本との関わり、市立図書館の利用状況等をお尋ねします。調査対象としては、約 200 のご家庭を予定しています。質問の設定にあたっては、第 3 次計画において、「保育所(園)・幼稚園では、親子で絵本を読む時間を共有することの大切さを伝えていただき、家庭での読書が増え、親と子と読書環境が整いつつあるものの、家庭によって読書に関する考え方の違いがみられることから、読み聞かせの大切さを啓発し、本の貸出や本の紹介を充実させる」といった位置づけがなされていることから、この実状を把握したく、調査表 A3 サイズ 1 枚程度で、数分で回答できる内容を検討しました。

次に、小・中学生に対しましては、今回独自調査はせず、国が毎年実施している「全国学力・学習状況調査」を活用し、これまでの経年変化や福岡県・全国値と比較しながら実状を把握したいと考えています。今回活用する「全国学力・学習状況調査」は、平成 19 年度から文部科学省が実施している調査で、市内の全 11 校、小学校は 6 年生、中学校は 3 年生、約 1,000 人が参加している調査となります。

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施が見送られたものの、調査項目としては読書に関するものだけでなく、学習の状況や日常生活の過ごし方など幅広い内容を、毎年項目を替えて調査しているものであり、第 1 回目の策定協議会において、福岡教育事務所の山森委員から講話をいただいた際にも、この調査結果を使って、子どもの読書の実態をご説明いただいた経緯があります。この「全国学力・学習状況調査」において、読書に関する質問は 3 問に限られていますが、日常生活の過ごし方に関する質問と絡めて分析することで、見えてくるものがあるかもしれませんし、

経年変化の他、福岡県や全国値と比較することで、古賀の優位性なども判断できることから、このような形で対応したいと考えています。

最後に、高校生に対しましては、市内の高校 2 年生、約 200 人を対象に、第 3 次計画策定時に調査した項目を含む独自調査を実施し、全部 14 問で経年変化と実状を把握したいと考えています。調査項目としまして、読書への関心や読書状況につきましては、前回と同様の項目を設定し経年変化を見るほか、幼少期からの読書量の変化、紙の本だけではなく電子書籍の利用状況を新たに加え、更に、高校生の読書離れ傾向が依然として続く中、“どうすればもっと本を読みたくなるのだろうか”といった視点で、高校生にこのアイデアを求める形で質問を検討しました。このアイデア質問の検討にあたり、お忙しい中ご協力をいただきました竟成館高校の森中委員に、この場をお借りして御礼申し上げます。

現状、どの現場も、コロナ対応で苦慮されている状況でございますが、10 月期 1 か月の読書活動を対象とし、調査項目を最小限にする形で関係機関には協力をお願いし、一応の内諾を得ているところでございます。

今後のスケジュールですが、11 月初めに調査を実施し、回収した後、速やかに集計作業に入り、今後のワーキンググループ会議やこの策定協議会に、概況を含めた結果を報告させていただきたいと考えています。

以上が概要となります。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

（会　長）　ありがとうございました。

10 月の 1 か月、ちょっと厳しい状況であるとは思いますが、1 か月間で調べていただいて、11 月初めに回収集計という形になりそうです。

まず、目的や対象とはいいと思いますが、内容的なことでは、前回の意見でつけ加えられた乳幼児とその保護者ということがまず 1 点目ありますね。乳幼児、幼児関係の様式を新しく入れましたので、ご質問ご意見等あればどうぞ。アンケート用紙には A3 サイズを使用するそうです。

草野委員どうぞ。

（草野委員）　乳幼児の保護者の方へのアンケートっていうのは、私も長年思っていることです。

やはり小さい時から声かけが大切だと思います。このコロナ期で声が出ていないそうです。親子や集団でいるといいんですけど、たけのこ文庫も閉鎖していて、「どこ行ったらいいのかわからない」というお母さんの声が聞こえてきたりしました。保育園に行っているお子さんや幼稚園に行っているお子さんはいいのですが。先日の毎日新聞に載っていた、家庭に 100 冊の本があると良いという記事を教えてもらいました。文庫に行けなかったとき、その絵本が 100 冊家にあれば、絶対それは救われると思っていたので、アンケート調査でそういう声が少しでも聞こえたら、うれしいなと思います。

私は、図書館のブックリサイクルの本をもらいに来てほしいと思っています。ほんとに喜ばれるんですよね。ブックリサイクルの本が図書館まで行かずにもっと地域の身近なところでもらえるようになるといいなと思います。一つの家庭に 100 冊の絵本があってほしいと思っています。リサイクル本の提供の仕方の見直しや、ご家庭で子どもが自由に本を手に取れる環境づくりを進めていただきたいと思います。

はい、ありがとうございました。

（会　長）　井手委員さん、亀川委員さん、他に何かありますか。

（亀川委員）　このコロナ禍の中で文庫も公民館が使用出来ないこともあり、2 年、開くことができていません。毎年行っている新 1 年生の歓迎おはなし会も地域の育成会のお母様方と話をして、結局、学校の行事とあわせて、結果できませんでした。

私は保育士をしていて、昨年度から 1 年間考えていることがあります。0 歳のお子様が入ってこられますが、ずっと職員はマスクをしていて、私たちの口元や全体の顔は見えません。それで、0 歳のクラスで数人でお話を読むときは、口元を隠すシールドをするようにしたんです。子ども達にとって本は大切なものだと思っているので、コロナ禍でのそういう状況をとても心配しています。

おうちの中ではマスクを外して、ぜひお父さんお母さんにも読み聞かせをして欲しいと思っています。今、コロナ禍で保育園とか幼稚園、地域の活動にも参加出来ない中で、子ども達がどうしてるんだろうというのをとても心配しています。

（会　長）　市立図書館の利用状況や家庭内での状況が、今のようなコロナ禍を受けて、どう変わってきたとか、影響しているか、実情がこのアンケートの中から見えてくるといいですね。今のマスク云々もそうですし、草野委員さんもおっしゃったように、家庭での実情等、どう関わって対応したらいいのかが見えてくると思います。図書館を利用できるところはそれでいいと思うんですけどね。

井手委員、何かご意見ありますか。

（井手委員）　本離れというところで、保護者が文字を読めないというか、保護者宛てのお手紙自体にたくさん字があると読まないんです。アンケートは内容がたくさんあるし、小さいし、もっと簡単にしていただいた方がいいと思います。見ただけで面倒くさいと思い、回答しないのではないかと思います。できれば簡潔にしていただいた方がいいかなと思います。

（会　長）　はい。もう少し簡潔にまとめたほうがいいということですね。

村山委員、他にお気づきの点ありますか。

（村山委員）　今の井手先生のお話にも関連するんですけれども、回答するお母さんも字や設問がたくさんあると「いやだな」と思ったり、このことを知られたくないというようなことがあったりすると、書くのが負担に感じると思います。していないと言いにくいとか、無記名であっても、そういう気持ちが出てくるのではないかと思いました。これを集計する人の負担も考えました。この項目がどこに関連しているかということをもう一度点検して項目をさらに吟味する方がいいのかなと思いました。例えば、お子さんに読み聞かせをしていますかという質問で、していないという人が、本が嫌いかもしれないですよね。だからそういうふうに関係して見ていくと、アンケートを取っていただいた苦労が実際に考察に繋がっていきますよね。その辺りをもっと考慮してアンケート項目を作り直すと、苦労が実るようなものになるんじゃないかなと思います。

（会　長）　10 月から始めようということで、もう時間がないわけですね。今いただいたのは大事なご指摘で、時間的にもう少し検討期間があるのならいいと思うんですが、それを修正するというのは大変難しい御意見だと思います。

ちょっとした操作だったらそう難しくないと思うんですよね。しかし、ここをもう一度考え直すということになってくると。村山委員さん、例えばこういうことされたらという案はありますか。

（村山委員）　案はちょっと今すぐには出ないですね。

（会　長）　今の案で検討できることとしては、この設問は何を問題としているのかということを確認した上で、精査できるところはしてみられたらどうでしょうかぐらいしか言えませんね、ちょっと。

（事務局）　貴重な御意見ありがとうございます。

質問項目の検討にあたっては、当初は、読み聞かせの頻度や、読む本の量のみをお尋ねするシンプルな形を考えていましたが、図書館内で検討を重ねるにつれて、あれも、これも聞きたいとなり、ボリュームが増えてしまった次第です。

現状、保護者によるお子さんへの読み聞かせが、どの程度行われ、どこから使用される本や情報源を入手されているのか、また適切な時期に読み聞かせが始められているか、読み聞かせをしていない理由にはどんなものがあるか、といった読み聞かせの実状を把握すること。また、読み聞かせにはたくさんの本が必要であり、このためにどの程度図書館を利用していただいているのか、利用されていない場合、どんな理由があるのかといった内容をお尋ねすることは、この時期の読書活動に対する有効な施策を考えていく上で、どれも必要な質問であると事務局としては考えています。

しいて言えば、保護者自身の本とのかかわりについてお尋ねする問 8 と問 9 は必須ではなく、読み聞かせの有無の背景を探りたいと考えて後に追加した質問であることから、ご指摘のとおり回答される保護者のご負担等を考慮し、削除することとします。

（会　長）　ありがとうございました。

アンケートは選択肢がありますし、「○」をつければいいわけですね。そして、ここに「○」をつけたら次は設問の何番に進みなさいとなっています。記入式ではなく選択式ですから、その辺がわかってもらえるといいのかなと思います。集計的な負担が大変かと思いますが。

では、問 8、9 については検討し、あとは大方この方向でいいですかね。

（事務局）　集計は事務局で手分けして進めますのでご心配いただかなくても大丈夫です。

実際、保護者にご回答いただくに当たりスマホで答えられた方がいいかなとも考えたり、でもやはり回収率ほかを考えると、園に協力をお願いして直接回収した方がいいのかとも思います。

この調査によって、保護者に読み聞かせのことを改めて考えていただくきっかけになってほしいなとも考えておりますので、内容については先の一部見直しを含めて事務局で協議したいと思います。

（会　長）　では、この方向で進めたいと思います。小・中学校については学力調査等での記述関係で見えてきますので、これでいいと思います。高校生については森中会員とも協議の上でまとめられたようなので、ほぼ良いと思います。森中委員から付け加えはありますか。

（森中委員）　　数回打合せましたので、特には。

（会　長）　　アンケートについては以上です。
以上で予定の議題は終わりました。

（５）その他

（会　長）　　では、その他を、事務局お願いします。

（事務局）　　はい、事務局から、会議録と次回、第３回の日程調整についてのお願いとなります。
まず、会議録につきましては、この公開に先駆け、委員の皆様方には、内容確認と校正をお願いしたく、毎回２名の委員に順番にご協力をお願いいたしております。突然ではございますが、今回は、名簿の上から五十音順に、井手委員、亀川委員にお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。
会議録ができましたらお手元にお届けいたしますのでご覧いただき、必要に応じて訂正等していただき、ご署名後お返しいただくことになります。ご多用中とは存じますがご協力の程よろしくお願いします。
次に、次回協議会の日程についてです。内容としましては、「アンケート調査結果の概況報告」と「第４次計画の構成案の協議」となります。可能でしたら12月17日（金）もしくは10日（金）に開催できればと考えております。恐縮ですが皆様方のご都合いかがでしょうか。

（会　長）　　では12月17日（金）が第１案です。第２案が12月10日（金）ですかね。まず、12月17日について、ご都合悪い方、ただし今日欠席の委員さんもいらっしゃいますしね。事務局のほうで欠席の委員さんに確認されますか。それはそれとして決めますかね。

（事務局）　　事務局からお声かけをさせていただきまして、今回の審議内容も含めて御報告しまして日程調整をいたします。

（会　長）　　では第１案の12月17日案で。

（事務局）　　それでは、12月17日（金）の開催とさせていただき、開始時間については、今回と同様の午後２時からとさせていただきます。場所については、今回と同じこの第２委員会室を考えておりますので、改めてご通知を申し上げます。よろしくお願いします。以上です。

（会　長）　　それでは今日の予定していた協議事項はこれにて終わります。委員の皆様、本当にありがとうございました。
本日は第２回目ということで、前回よりも踏み込んだところでいろんな御意見いただきまして、本当にありがとうございます。

４　閉会のことば

（課　長）　図書館まつりのご案内をさせていただきたいと思います。10 月 23 日土曜日です。本来は落語家の粗忽家酔書さんという方をお呼びしてイベントをやろうと思ってたんですが、こういった御時世でもありますので規模を縮小します。けれども、図書館まつりとしてはさせていただきますので、ぜひ、おいでいただければということで御案内をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

鈴木会長スムーズな進行どうもありがとうございました。

これをもちまして、令和 3 年度第 2 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。